



# Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第31号

目次

- メディカルバレー 欧州ミッション
- 「国立大学の組織・業務改革のあり方に関する講演会」開催
- 「ヨーロッパに学ぶもの」
- 工学部で「JABEE認定実地審査」が行われる
- 「地域中小企業問題解決型MOT(Management of Technology)教育プログラム」
- 第4回生き生きフェスタ
- 「東海・東南海・南海地震シンポジウムーその時に備えて防災を考えるー」を開催
- 教育学部長感謝状授与
- 「動物実験感謝祭」挙行
- 附属図書館で職場体験学習
- 留学生と学部長との懇談会

## メディカルバレー 欧州ミッション

11月9日～17日の間、メディカルバレー・プロジェクトの一環として、三重大学、三重TLO、三重県・津市・伊賀市、中部経済産業局、医薬品関係企業、ジェットロ三重からなる視察団（25人）がドイツ・デンマーク・スウェーデンを訪問しました。主な目的は、バイオコンバレー（ドイツ）・メディコンバレー（スウェーデン・デンマーク）での、企業の先進的技術の視察、TLOの活動視察と協力関係構築、大学間の協力関係の構築・推進でした。ドイツでは医学部・下野高嗣助教授、平野弘嗣助手および森野捷輔理事がロストック大やドイツ連邦教育研究省を訪問し、再生医療などの研究現状と将来展望や、協力協定を結ぶ両大学医学部の活動等について意見を交わしました。一方スウェーデンでは生物資源学部・橋本篤教授と亀岡孝治理事がルンド大学を訪問し、食品・化学・生物・環境工学を中心とした今後の研究協力や学生交流について話し合いました。



## 「国立大学の組織・業務改革のあり方に関する講演会」開催

10月27日、三翠ホールにおいて筑波大学学長特別補佐の吉武博通氏（同大学院ビジネス科学研究科教授）を招き標記特別講演会が開催されました。「大学の将来像と教職員の役割～企業と大学の改革実務経験を踏まえ～」という演題の講演会には、200名以上の教職員が参加し、民間企業（新日鉄）における組織・業務改革の豊富なご経験を法人化後の筑波大学でどのように活かしているかについて、現場とのコミュニケーションに基づく着実な改革の進捗ぶりを披露され、事務職員のプロフェッショナル化の重要性を強調されました。講演の後、活発な質疑応答があり、意義深い講演会となりました。なお、講演会終了後、役員・部局長との懇談会も開催され、約1時間ほど活発な意見交換が行われました。

## 「ヨーロッパに学ぶもの」

今年が日本とEUの市民交流年に当たることを記念し、標記シンポジウム（三重県・三重大学主催、外務省後援）が11月7日に三翠ホールで開催されました。亀岡理事の挨拶の後、丸山純一 外務省欧州局審議官の基調講演があり、その後、丸山氏、ウルリッヒ・ヨハイム氏（EU駐日欧州委員会）、ルイス・アビニョ氏（スペイン・バレンシア州政府駐日代表事務所）、ティエリー・グットマン助教授、江成幸助教授5人による討論が持たれました。「経済の統合に続いて安全保障や司法の面での統合が進むかどうか」、「現在フランスをはじめEU諸国で起こっている移民問題はどのようになるのか」などホットな問題にも言及があり、白熱した議論が行なわれました。



## 工学部で「JABEE認定実地審査」が行われる



工学部機械工学科(学科長:水谷一樹教授)に対する日本技術者教育認定機構(JABEE)による技術者教育プログラム認定のための実地審査が10月30日から11月1日まで実施されました。実地審査は、JABEEが示した100余の項目に対して機械工学科が提出した自己点検書に基づいて行われ、点検事項のエビデンスを示す裏付書類の確認、卒業生を含む学生及び教職員への面接、授業参観、施設視察等により機械工学科教育プログラムの内容が詳細に審査されました。正式な審査結果が出るのは来年6月ですが、良い結果を期待しています。機械工学科一同は、JABEEの受審に関してご協力をいただきました教職員の各位に深く感謝いたします。

## 「地域中小企業問題解決型MOT(Management of Technology)教育プログラム」

三重大学では三重県内の中小企業の方々を対象とした「地域中小企業問題解決型MOT(Management of Technology)教育プログラム」の実証講義を10月17日より開始しました。三重県は全国有数の製造業の集積地域ですが、下請け型経営から付加価値型経営への経済構造変化の中で、技術を核にした経営に関するリーディング・ケース情報や人材育成等の技術経営について学んでいく場が不足しているのが現状です。このような地域特性の中で、本学は中小企業の技術を核にした事業経営力向上を実践的に支援する教育プログラムを開発し、三重県、経済産業省並びに三重TLOと連携して地域産業の発展に貢献すべく、講師が講義及びケーススタディ(PBL型演習)の指導を行っています。この講義は四日市(じばさん三重)と津(三重大学メディアホール)の二つの講義会場をポリコム(テレビ会議システム)によって結び、多くの人が受講できる形をとっています。講義は平成17年10月から18年2月の間、平日夜間と土曜日に社会人を対象として行われます。

### 第4回生き生きフェスタ

10月22日に芸濃町で標記フェスタが開催されました。このイベントは本学の杉田正明助教授・教育学部と櫻井しのぶ教授・医学部看護学科が、初回より芸濃町の寝たきり予防推進委員会のメンバーとして企画立案してきたものです。毎回、多くの町民が参加し、健康づくりのきっかけとなっています。実際にこの5年で住民の死亡の順位は県内で改善し、その効果はめざましいものがあります。今回は住民のスポーツジャーナリストの増田明美氏を講師にウォーキング指導・実施とトークショーが行われました。



## 「東海・東南海・南海地震シンポジウムーその時に備えて防災を考えるー」を開催



10月22日、附属図書館では、防災啓発の地域貢献事業の一環として名張市において、三重県・名張市・伊賀南部消防組合との共催で、標記シンポジウムを開催しました。亀岡附属図書館長の総合同会により、三重県危機管理局東地総括室長、本学の災害対策プロジェクト室川口助教授・医学部附属病院野村助手による被災後の援助活動や心のケアを中心とした発表に続き、医学部看護学科宮田助手、名張市の福山危機管理担当理事らを加えて、パネルディスカッションが行われました。約120人の参加者からは、建物の耐震や地域の避難場所等多数の質問が寄せられ、関心の深さがうかがえた。また、図書館所蔵の防災関連図書・絵巻・被災地の写真の展示・上映、三重県の液状化模型や耐震模型・「防災みえ号」の実演・展示もあり、その様子をカメラに納める参加者の姿もみられました。

### 教育学部長感謝状授与

教育学部では、11月9日の教授会の会場において、学部内の美化活動にボランティアとして多大の貢献をいただいた中村通夫氏・教育学部父母連絡会事務局長に対して丹保教育学部長から感謝状を授与しました。中村氏は、教育学部長が「教育学部を綺麗にしたい。」と話しているのを聞き、草刈り・樹木の剪定等の清掃ボランティア活動を始められ、学部周辺は見違えるように綺麗になりました。また、活動は、学生や教職員にも大きな影響を与えました。その功績に対し学部として感謝と敬意を表したものです。



### 「動物実験感謝祭」 挙行

11月15日、本学構内の「医礎の庭」において「実験動物感謝祭」が生命科学支援センター(センター長:鈴木宏治教授)の主催で執り行われました。式典では教員や学生約150人が献花を行い、医学や生命科学の基礎となった動物(マウス、ラット、モルモット、ウサギ、犬など約3万匹)に感謝と敬意を表しました。

### 附属図書館で職場体験学習

11月15日～17日の3日間、昨年に引き続き、西郊中学校2年生の4人が職場体験学習のため図書館を訪れました。図書の貸出や返却された図書を書架へ戻す作業をはじめ、学生用図書の発注のためのリストを作成したり、他機関との協力業務として複写依頼のあった文献を書架から取り出してきて複写をしたり、図書館の予定を黒板に記入したり、利用者用のパソコンの掃除をしたりと、各係のスタッフが工夫をこらして、ふだん図書館を利用しているだけでは見えない仕事もいろいろと体験してもらいました。3日間の仕事を終えた後には、意外な仕事があった驚きや、本の検索の仕方がわかって、これから図書館に来たときにはうまく調べることができそうなどの感想がきかれました。

### 留学生と学部長との懇談会

教育学部において7月と10月に2回にわたり留学生と学部長の懇談会が開催された。学部生(2回)、大学院生、そして研究生に分けて行われた。丹保健一学部長から留学生への熱い期待と希望が情熱的に語られると同時に、留学生からは三重大学生である喜びと大学で学ぶ楽しみが語られた。その一方、話題は、奨学金や授業料や宿舎の問題、勉強とアルバイトの両立問題、さらには講座内容の改善要求などすぐには解決することの困難な深刻で現実的な問題にも及び、充実した多彩な意見交換の時間も瞬く間に過ぎ去った。

### 投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治(vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾